

歴史書 通信

11

2019 No. 246

文化財建造物の保存修理 [濱島正士]

歴史書新刊ニュース(9・10月)

歴史書以外の人文社会図書新刊案内(9・10月)



歴史書懇話会

文化財建造物の保存修理

濱島 正士

国立歴史民俗博物館名誉教授
(公財)文化財建造物保存技術協会顧問

木造建築の保存 日本と中国

今年7月、伝仁徳天皇陵をはじめとする大阪府堺市の古墳群が世界文化遺産に登録され、話題を呼んだ。あれだけ大規模な土木構築物の技術と歴史性を考えると、世界の宝たることは明白であろう。世界文化遺産としては、1993（平成5）年に法隆寺等の仏教建造物と姫路城が日本における第1号として登録されている。法隆寺の金堂・五重塔・中門は7世紀末から8世紀初にかけて建立された世界最古の木造建築で、日本にはほかにも8世紀の木造建築が20数棟残されている。世界有数の地震国であり毎年台風に襲われるなど厳しい自然環境の日本で、なぜこれだけの古い木造建築が残されているのか。それは、優れた建築は長く安全に使い続けて後世に残そうとする努力を古代以来積み重ねてきた結果にほかならない。

日本に寺院建築を伝えた中国や朝鮮半島には日本ほど古い木造建築は残さ

れていない（中国最古は782年の南禅寺大殿、韓国は13世紀の鳳停寺極楽殿）。日本と中国の仏塔について比べてみると、日本では近世以前に建立された五重塔が22基残されており、ほかに三重塔114基、多宝塔83基（ともに近世以前）が残されている。一方、中国には石造・埴造や、塔身を石・埴で造り軒等を木造とした塔は数多くあって、6世紀のものも残されているが、全体が木造の塔は仏宮寺釈迦塔（応県木塔、1056年）ただ1基しかない。中国では仏教伝来以降石造・埴造・木造の塔が建てられたが、木造塔は修理など建立後の維持が大変なため次第に姿を消し、あまり修理を必要としない石造・埴造の塔に替わっていったのではないかと考えている。

建立後の保存修理

木造建築は素材が有機質の木材であるから、雨漏りによって腐朽したり虫害を受けたりし、経年変化によって折

れ曲ったり潰れたりもする。また、地震や台風によって接合部が緩んだり全体が傾いたりし、そのまま放置すると破壊・倒壊にも至る。保存するためには、そうなる前に修理をして建立時の構造力を取り戻す必要がある。木造建築は修理をしないと保存することができないのである。それでは、日本ではどのような修理が行われてきたのか。

まず最初に、雨漏りをさせないことが肝要で、屋根葺材の耐用年限がくる前に屋根葺替修理を行わなければならない。耐用年限は茅・檜皮・板・瓦など葺材によって異なるので、それぞれに合わせて周期的に葺替修理を行ってきた。また、社寺建築は丹・弁柄・漆などの塗装を施したものが多く、それが木材の風食を防ぐのに役立っている。したがって、塗装が剥げ落ちる前に周期的に塗り替えることで部材を長持ちさせることができる。そのほか、縁回りなどは風雨に晒されて傷み易いので、部分を限って随時修理する必要もある。

こうした維持的な修理を行いながら数百年が経つと、今度は根本的な修理を行うことになる。その際には、破損の程度に応じて軒から上あるいは組物から上を解体する（半解体）場合もあれば、軸部まで全体を解体する場合もある。日本の木造建築は軸組構造が基本で、部材は仕口・継手・組手によっ

て接合されているので、丁寧に解体することで部材を傷めることなく、元どおりに組み上げることができる。腐朽や破損がひどくて再用できない部材は同等の新材に取替えることになるが、部分的に傷んだ部材は矧木・継木・埋木をしてできる限り古材の再用に務めている。古代以来、こうした大小の修理を繰り返し行ってきたからこそ、古い建築が数多く残されてきたのである。

明治以降は歴史的建造物を法律に基づき文化財として保護しているが、保存修理の手法は近世以前と基本的に変わってはいない。異なる点は、現在の修理では実証的・科学的調査を行って各時代の建築技術や歴史・沿革を明らかにし、必要に応じて往時の姿に復原することである。古い建築は修理の際や使用上の都合で構造・意匠・平面などが一部改変されていることがある。その場合には、残された資料や痕跡によって建立当初や途中の状況を把握し、その建築にとって最も価値が高いと考えられる姿に復原することになる。

建立時の保存対策

日本では建立時においても、将来の雨漏り、地震・台風、経年変化等に備えた対策が取られている。日本在来の神殿建築などは柱を掘立てとし内部に板敷床を張り外側に長押を廻らせるこ

とで耐震性をもたせ、勾配の急な屋根で雨漏りを防いできた。一方、中国伝来の寺院建築は柱が礎石立て、床は石敷や埴敷で柱を繋ぐ長押は無く、屋根は勾配の緩い軒の垂木上に土を置いて瓦を葺いており、耐震性に劣り雨漏りもし易い構造であった。そこで、まず日本の長押を取り入れて柱を固めるようになり、板敷床を張るものもあった。日本最古の寺院建築である法隆寺金堂でも下重柱の足元には地長押が取り付けられているし、8世紀中頃の東大寺法華堂正堂では柱の上部に内法長押が廻らされ、板敷床も張られている。耐震工作としては、そのほかに現代でも重要とされる筋違が9世紀から使われている。

屋根については、軒の垂木の上に勾配の急な野地を別に造って（野屋根という）瓦を葺く構造が、10世紀には考案されていて雨漏りを防げるようになった。このように、寺院建築は日本の厳しい自然環境に適応でき、かつ日本人の好みにも合うように、早い時期から国風化が進められてきた。

そのほか、建立時に取られた保存対策としては柱根の腐朽を防ぐ工作がある。礎石に排水・通気用の溝を穿ったり（法隆寺食堂など）、柱の底面に十字の通気溝を刻んだり（東福寺三門など）することが行われている。また、経年

変化に備えた対策としては組物の三手先に取りられたものがある。三手先では軒の荷重が一番下の大斗に集中して破損し易いため、大斗のみ堅木の檼材としたり（薬師寺東塔、平等院鳳凰堂）、大斗の斗尻に皿や突起を造り出して補強する（如意寺三重塔、国分寺三重塔など）ことなどが行われている。

以上のように、日本の木造建築では建立時に将来の地震・台風、経年変化に備えた対策が取られ、建立後は破損状況に応じて適切な時期に適切な修理を繰り返して現在に至っている。

今春、山川出版社から刊行された『文化財建造物の保存修理を考える』は、日本における伝統的木造建築の保存修理についてその理念とあり方を幅広い観点から深く掘り下げて論じた書である。同書は、公益財団法人文化財建造物保存技術協会（以下、文建協）が実施した同題のシンポジウムの成果をまとめたもので、文化財建造物修理工事の技術者、行政担当者、日本建築史の研究者がそれぞれの立場から発表・討論を行っている。従来、文化財建造物の保存修理についてこれだけ詳しく適確に記述した書はない。同書によって日本の実態・考え方等が広く国内外へ発信され、理解が深められることを期待したい。とくに、石造建築の

保存を主とする西欧の人達に、木造建築は修理をしないと保存できないこと、修理によってその建築の価値がより明らかにされ、かつ伝統技術が確実に継承されていくこと等が正しく理解されることを望みたい。

同書の編集を担当した文建協は文化財建造物の調査や修理工事の設計監理に携わる技術者集団で、その担当範囲は京都・奈良・滋賀・和歌山の4府県と日光を除く全国のほぼ全域に及んで

いる。近年は伝統的な木造建築にとどまらず、近代化遺産の保存修理、史跡地建物の復元設計なども行っている。

[表紙写真] 海住山寺五重塔（国宝、京都府、1214年建立）

修理前(左)と修理後(右)

1961～63年に解体修理。修理前は初重の軒の出が大きく、各重に軒支柱を立てていた。調査によりもとは初重に裳階が付設されていたことが判明し、復原。全体の構造力を高め、軒支柱を撤去。(著者撮影)

新刊ニュース

9・10月の新刊 *発売予定のものもあります

歴史一般 事典／年表・地図／歴史学・補助学

福尾正彦著
陵墓研究の道標

A 5判 328頁 6,300円

山川出版社 [10月刊]

古代から現代にいたるまでの陵墓の歴史的な変遷、維持・管理や治定の歴史を通観する。陵墓を知るための道しるべとなる書。

978-4-634-52029-5

考古学 概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

石田茂作編
古瓦図鑑 (新装版)

A 4横判 296頁 32,000円

吉川弘文館 [9月刊]

戦前の考古学者高橋健自が収蔵した、日本・中国・朝鮮半島の遺跡出土の古瓦 959点を、形式ごとに分類・編集した稀観書を新装復刊。

978-4-642-01661-2

日本史 概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

浅草寺史料編纂所・浅草寺日記研究会編
浅草寺日記 第39巻

明治3年

A 5判 816頁 10,000円

吉川弘文館 [9月刊]

寛保から幕末まで120有余年にわたる連年の明細記録。思想・宗教・文化・芸能・政治・経済・社会等を知る貴重な文献。

978-4-642-01628-5

木本好信著
藤原式家官人の考察 新装復刊

A 5判 276頁 5,900円

岩田書院 [9月刊]

宇合・田村麻呂・百川・藏下麻呂・種継をとりあげて考察する。序：直木孝次郎、高科書店版(1998年)から索引削除して、並製本に変更。

978-4-86602-080-8

松田行彦著
古代日本の国家と土地支配

A 5判 344頁 11,000円

吉川弘文館 [10月刊]

古代人と土地の関係を、経済面と国家との関係から追ひ、地域社会の土地慣行を復元。土地をめぐる諸問題への律令制国家の関与を追究。

978-4-642-04656-5

今津勝紀著
戸籍が語る古代の家族

(歴史文化ライブラリー488)

四六判 224頁 1,700円

吉川弘文館 [9月刊]

古代でも戸籍に人々が登録され、租税負担の基本となっていた。人口総数や平均余命、歳の差婚が多かった理由等、人々の暮らしを解明。

978-4-642-05888-9

倉本一宏編
現代語訳 小右記 9

「この世をば」

四六判 312頁 2,800円

吉川弘文館 [10月刊]

「一家三后」という形で道長の栄華が頂点に。その宴席で実資は、道長の「この世をば」を皆で唱和しようと提案。その胸中や如何に。

978-4-642-01824-1

木村茂光著

平将門の乱を読み解く

(歴史文化ライブラリー 489)

A 5判 288頁 1,800円

吉川弘文館 [10月刊]

乱の原因を探り、その過程に天神など新しい神々が登場する意味や、王土王民思想が発現される要因を分析。反乱の国家史的意義を探る。

978-4-642-05889-6

榎本淳一著

日唐賤人制度の比較研究

(古代史選書 33)

A 5判 234頁 5,000円

同成社 [10月刊]

日唐の奴婢とヤツコ、賤人制の相違、婚姻や売買等の問題を詳細に分析し、奴隸制は存在しないと断言する斬新な日本古代史像を提示する。

978-4-88621-831-5

平川 南著

文字文化のひろがり

東国・甲斐からよむ(新しい古代史へ2)

A 5判 264頁 2,500円

吉川弘文館 [9月刊]

戸籍などにみる文字の権威や、祈り・まじないの原像、仮名成立を解く新発見など、地中から甦った文字資料が豊かな古代社会を語る。

978-4-642-06843-7

佐伯徳哉著

権門体制下の出雲と荘園支配

(中世史選書 27)

A 5判 274頁 6,000円

同成社 [10月刊]

地域の詳細な文献分析から中央を論究するという手法に則り、出雲国の荘園支配形成過程を詳述することで、中世国家の支配構造を解明する。

978-4-88621-832-2

高橋慎一朗著

中世鎌倉のまちづくり

災害・交通・境界

A 5判 228頁 2,800円

吉川弘文館 [10月刊]

多様な機能を持つ橋、谷の奥に展開した禅宗寺院、武家屋敷の遺構から、武士たちの暮らしを分析。人や物が行き交う都市鎌倉を探る。

978-4-642-08361-4

小川 信著

足利一門守護発展史の研究(新装版)

A 5判 834頁 12,000円

吉川弘文館 [9月刊]

足利一門(細川・斯波・畠山)の発展過程を追究し、三管領として政権中枢を占めた理由を解明。今なお研究に寄与する労作を新装復刊。

978-4-642-02959-9

谷口雄太著

中世足利氏の血統と権威

A 5判 352頁 9,500円

吉川弘文館 [10月刊]

足利一門のなかでも別格の吉良・石橋・渋川(御一家)を検証。一門を上位とする武家の儀礼・血統的な秩序形成から崩壊までを描く。

978-4-642-02958-2

野澤隆一著

戦国期の伝馬制度と負担体系

(戦国史研究叢書 18)

A 5判 318頁 6,800円

岩田書院 [6月刊]

中世前期の伝馬制度の比較検討と、拔地売券・寄進状から新たな加地子の存在形態を明らかにする。

978-4-86602-072-3

橋詰 茂編

戦国・近世初期 西と東の地域社会

A 5判 516頁 11,000円

岩田書院 [6月刊]

編者の古稀を機に、編者の母校・駒澤大学や地方史研究協議会の研究者と、出身地・四国の研究者、総19名が執筆。

978-4-86602-074-7

萩原三雄著

戦国期城郭と考古学

(中世史研究叢書 31)

A 5判 316頁 6,400円

岩田書院 [6月刊]

武田氏の城郭とその築城技術を中心に、著者の永年の研究成果をまとめ、中世城館研究の課題と展望を示す。論考17本を収録。

978-4-86602-073-0

河内将芳著

戦国仏教と京都

法華宗・日蓮宗を中心に

A 5判 372頁 7,500円

法藏館 [9月刊]

公武の世俗権力や顕密寺社との関係から、戦国期京都で法華宗がたどった変化の軌跡と、「戦国仏教」としての特質にせまる待望の書。

978-4-8318-6252-5

安藤 弥著

戦国期宗教勢力史論

A 5判 618頁 12,000円

法蔵館 [10月刊]

日本社会が変容していく15～16世紀、戦国期宗教勢力としての本願寺教団の歴史の実態を明らかにする。

978-4-8318-6251-8

神田裕理著

朝廷の戦国時代

武家と公家の駆け引き

四六判 288頁 2,400円

吉川弘文館 [9月刊]

天皇や公家たちはいかなる存在だったのか。足利将軍や天下人と互いに利用し合った実態を解明。天皇・公家の主体性を再評価する。

978-4-642-08360-7

朝暮研究会編

論集 近世の天皇と朝廷

A 5判 522頁 10,000円

岩田書院 [5月刊]

1983年に活動を始めて以来の成果を集約する。天皇・朝廷と幕府・諸藩／公家社会に生きる人々／朝廷と宗教・諸集団／20編収録。

978-4-86602-070-9

村上紀夫著

近世京都寺社の文化史

A 5判 360頁 8,000円

法蔵館 [10月刊]

経済基盤の脆弱な洛中の様々な寺社が存続をかけたといった生存戦略の実態を明らかにし、その背景になった近世都市固有の宗教的需要を読み取る。

978-4-8318-6253-2

見城梯治 責任編集

国際交流に託した渋沢栄一の望み

「民」による平和と共存の模索

A 5判 232頁 3,800円

ミネルヴァ書房 [10月刊]

渋沢の国際社会に対する姿勢や、平和実現に向けた思考を問いながら、国際交流活動の実践と、その現代的意義を評価する。

978-4-623-08658-0

中野 良著

日本陸軍の軍事演習と地域社会

A 5判 264頁 9,000円

吉川弘文館 [10月刊]

日露戦後から昭和戦前期を対象に、演習地の負担や利益、演習地に対する陸軍の認識を検討。天皇統監の特別大演習に関する論考も収録。

978-4-642-03888-1

及川琢英著

帝国日本の大陸政策と満洲国軍

A 5判 288頁 9,000円

吉川弘文館 [10月刊]

満洲国軍とはいかなる存在だったか。馬賊ら在地勢力の編入過程や、軍内統制、作戦動員と崩壊までを検証。その歴史的意義を考察する。

978-4-642-03889-8

東四柳祥子著

料理書と近代日本の食文化

B 5判 392頁 13,600円

同成社 [10月刊]

開国以降、急速に身近になった洋食の影響を受け、日本の食文化はいかなる変容を遂げたのか。近代料理書の一次史料を渉猟しその過程を追究する。

978-4-88621-830-8

小川真和子著

海をめぐる対話 ハワイと日本

水産業からのアプローチ（埼選書124）

B 6判 244頁 2,300円

埼書房 [9月刊]

19世紀後半から太平洋戦争を経て現在に至る協調と排斥のなか、ハワイの水産業を育てあげた日本人漁業移民の歴史を聞きとりを交えて描く。

978-4-8273-3124-0

池 享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編

みる・よむ・あるく 東京の歴史 7

地帯編4 渋谷区・中野区・杉並区・板橋区・練馬区・豊島区・北区

B 5判 160頁 2,800円

吉川弘文館 [10月刊]

近代化にともない鉄道が伸び、人が移り住み、やがてムラからマチへと都市化を遂げていった、23区西北部エリアの変貌と発展を描く。

978-4-642-06832-1

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

鈴木 董著

大人のための「世界史」ゼミ

A 5判 320頁 1,600円

山川出版社 [9月刊]

比較文明史に造詣の深い著者によるユニークな視点が満載。暗記ではなく考える世界史。この1冊で人類史のおおまかな「動き」がつかめる。

978-4-634-15150-5

鈴木英明編著

東アジア海域から眺望する世界史

ネットワークと海域

四六判 328頁 3,800円

明石書店 [10月刊]

海域史は一国史など既存の歴史単位に依らない新たな歴史像を構築し、発展してきた。その新たな可能性を、ネットワーク論の観点から模索。

978-4-7503-4907-7

大内文雄著

唐・南山道宣著作序文訳註

(龍谷叢書 50)

A 5判 420頁 7,500円

法藏館 [10月刊]

21篇の著作に道宣自らが著した序文に、釈文・訓読・訳註を付し、律師・仏教史家など多様な顔を持つ道宣の全体像を俯瞰する。

978-4-8318-7727-7

戸塚悦朗著

「徴用工問題」とは何か

韓国大法院判決が問うもの

四六判 208頁 2,200円

明石書店 [10月刊]

韓国大法院の徴用工裁判判決はなぜ日韓関係に深刻な亀裂を生んだのか。判決文を読み解きながら、その根本的な問題を解き明かす。

978-4-7503-4904-6

野田仁・小松久男編著

近代中央ユーラシアの眺望

A 5判 320頁 4,800円

山川出版社 [10月刊]

ソ連解体を経て大きな変容を遂げた中央ユーラシア地域について、最新の研究成果をもとに、より鮮明な歴史像を描く。

978-4-634-67249-9

文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

都市史学会編

都市史研究 6

B 5判 176頁 3,800円

山川出版社 [10月刊]

都市史学会の会誌の第6号。論文「將軍鷹野御成と江戸町方」(山崎久登)・「明治初頭東京における神社社会の再構築」(小南弘季)など収録。

978-4-634-52756-0

瀬川高央著

核軍縮の現代史

北朝鮮・ウクライナ・イラン

四六判 260頁 1,900円

吉川弘文館 [10月刊]

東西冷戦後、核軍縮が進んだ。安全保障上の利害の異なる関係諸国が、いかに核拡散の脅威を低減する合意を成立させてきたかを解明。

978-4-642-08362-1

石田雅春著

戦後日本の教科書問題

A 5判 280頁 9,000円

吉川弘文館 [10月刊]

日教組と文部省の対立や教科書無償化、家永教科書裁判などの諸問題を、従来とは異なる視点で分析して実態に迫る。

978-4-642-03887-4

上田正昭著

日本の神話を考える

(読みなおす日本史)

四六判 192頁 2,200円

吉川弘文館 [10月刊]

『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』…。東アジアとの関わりも視野に入れ、日本神話全体を見通す上田神話学の集大成!

978-4-642-07110-9

伊藤奈保子著

改定版 インドネシアの宗教美術

鑄造像・法具の世界

B 5判 330頁 14,000円

法蔵館 [10月刊]

イスラム化以前のインドネシアに存在した仏教とヒンドゥー教の実態を、遺存する鑄造像と法具類を収集・文責・検討することにより解明する。

978-4-8318-6378-2

小野真龍著

雅楽のコスモロジー

日本宗教式楽の精神史

四六判 256頁 2,200円

法蔵館 [10月刊]

神仏や王権と密接に関わりながら、日本の宗教世界に影響を与えてきた雅楽。古代から近代までのその精神史を外観する稀有な成果！

978-4-8318-6256-3

太田博太郎著

奈良の寺々

古建築の見かた（読みなおす日本史）

四六判 192頁 2,200円

吉川弘文館 [9月刊]

建築は基本的知識がないと美や良さを理解し難い。基礎用語と建物の構造を平易に解説した、鑑賞のための入門書。建築用語索引を付す。

978-4-642-07109-3

関沢まゆみ編

菓子と果物

（日本の食文化6）

四六判 256頁 2,700円

吉川弘文館 [10月刊]

砂糖が普及する以前、甘い食物は貴重だった。古代から食されてきた栗、年中行事と関わる饅頭、贈答品の和菓子など、甘味文化を描く。

978-4-642-06841-3

坂本 要著

民間念仏信仰の研究

A 5判 880頁 18,000円

法蔵館 [10月刊]

全国約600カ所に上る調査をもとに各地の民間念仏の実態を論じ、歴史的経緯を明らかにした労作。伝承が途絶えた貴重な報告も多数収載。

978-4-8318-6299-0

名久井文明著

食べ物の民俗考古学

木の実と調理道具

A 5判 176頁 4,500円

吉川弘文館 [10月刊]

縄紋時代の人々は、木の実などの食べ物をいかに処理し、利用してきたのか。出土遺物が形成された背景を、民俗事例から追究する。

978-4-642-08204-4

名久井文明著

生活道具の民俗考古学

籠・履物・木割り楔・土器

A 5判 192頁 4,500円

吉川弘文館 [10月刊]

縄紋時代以降、人々は籠や履物などの生活道具をいかに作り、使ってきたか。出土遺物が形成された背景を、民俗事例から追究する。

978-4-642-08205-1

伝記

鶴見太郎著

柳田国男

感じたるまゝ（ミネルヴァ日本評伝選）

四六判 380頁 2,800円

ミネルヴァ書房 [9月刊]

無数の生活者の詩を集め、そこに歴史を見出し、民俗学を創始する。日本の民俗学の礎を築き上げた知の巨人の全貌を描く。

978-4-623-08739-6

中野日 徹著

三宅雪嶺

（人物叢書297）

四六判 336頁 2,300円

吉川弘文館 [10月刊]

明治～昭和期のジャーナリスト。雑誌を中心に社会を論じ、独自の哲学構築と日本・日本人像を模索した稀有の言論人の本格的伝記。

978-4-642-05290-0

古川秀昭著

熊谷守一

目に見えないものを（ミネルヴァ日本評伝選）

四六判 288頁 3,200円

ミネルヴァ書房 [9月刊]

死に出会い、死を見つめながら、見えない生を描き続けた仙人の画家。庭の中で絵を描くことだけに没頭したその97年の生涯。

978-4-623-08740-2

雑誌

日本歴史

日本歴史学会編集

10月号(第857) = 9月刊
11月号(第858) = 10月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,600円 [税・送料込]

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,400円 [税・送料込]

三年間前払い 24,000円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000円 [税・送料込]

A5判 10月号 = 130頁、11月号 = 130頁
10月号 = 741円、11月号 = 745円

吉川弘文館 [9・10月刊]

吉川弘文館編集部編

歴史手帳 2020年版

A6判 336頁 1,100円

吉川弘文館 [10月刊]

日記と歴史百科が一冊にまとまり毎年好評。装幀を一新し、刀剣・城郭・応仁の乱&幕末地図など、ビジュアル付録を大增補!

978-4-642-09846-5

歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2019. 9・10

明石書店

- 右翼ポピュリズムのディスコース 恐怖をあおる政治はどのようにつくられるのか ルート・ヴォグック 著
.....A5判 3,500円 10月
- 在日コリアン弁護士から見た日本社会のヘイトスピーチ 差別の歴史からネット被害・大量懲戒請求まで
金竜介・姜文江・在日コリアン弁護士協会 編.....四六判 2,200円 10月
- 地域から国民国家を問い直す スコットランド、カタール、ウイグル、琉球・沖縄を事例として 奥野良知 編著
.....四六判 2,600円 10月

法蔵館

- 院政期天台教学の研究 宝地房証真の思想 松本知己 著.....A5判 9,000円 9月
- 梵文『維摩経』翻訳語彙典 植木雅俊 著.....B5判 28,000円 9月
- 空海思想とその成りたち 岡村圭真著作集 第一巻 岡村圭真 著.....A5判 4,800円 9月
- 慈雲尊者 その生涯と思想 岡村圭真著作集 第二巻 岡村圭真 著.....A5判 4,000円 9月

行ってきました北海道！

◆去る9月19日～21日、歴史書懇話会では研修旅行を実施しました。開催地域は北海道です。お邪魔させていただいた書店の皆様（江別蔦谷書店様、喜久屋書店小樽店様、紀伊國屋書店札幌本店様、コーチャンフォー新川通り店様、コーチャンフォームンヘン大橋店様、三省堂書店札幌店様、ダイヤ書房外商部様、北海道大学生協書籍部クラーク店様、北海道大学附属図書館様、MARUZEN & ジュンク堂書店札幌店様〈五十音順〉）、またご同行いただいた取次会社の方々、そして現地の懇親会にご出席いただいた関係者各位に、この場をお借りしあらためて御礼申し上げます。個人的には、北海道の書店の棚を拝見したのは今回が初めてだったのですが（なんと私、これまでの訪問北限が青森市でした）、郷土本の充実度はちょっと他地域とは「ちがうなあ」と感じました。新千歳空港に到着し列車に乗り換え、札幌までの車窓から見える風景にもやはり北海道は「ちがうなあ」と思われました。なんていうんでしょう、規格外といえますか、サイズが大きいですよね。あらゆる意味で、あらゆるモノが。独自の歴史と文化、地平線までつづく農場と牧場、雄大にそよぐ木々の枝々。感慨深く眺めてまいりました。

◆台風15号が列島を直撃し、千葉県域が大きな被害を受けました。被災された方々に慎んでお見舞い申し上げます。停電そのものがこれほど長引くとは、当初だれも思っていなかったのではないのでしょうか。2週間近くも風呂が沸かない、料理もできない、情報も入らない。現地の報道を見るにつけ、令和の時代に電気がないというのはあり得ない世界なのだなと実感しました。電気の歴史をひもとけば、発明王エジソンが電球を発明したのが1879年。日本に伝わり実用化されたのは意外に早く、1882年に銀座で初の街灯が灯ったそうです。世界初の洗濯機誕生が1908年（アメリカ）。1929年にはイギリスBBCでテレビの実験放送が開始。電気の概念自体はなんと紀元前の古代ギリシャ時代から議論され、電流の実験などは欧州の中世など比較的早い時期からあったようですが、実用的な、電気を利用して利器を動かすような製品が出回るのはやはり近代以降で、人類の歴史からみれば、ほんの最近の話といえそうです。その進歩の速度から考えると、逆に一周して電気を使う製品が時代遅れになったりして、「昔は電気がないと何もできなかったんだよ。2019年9月に関東を直撃した台風15号では……」などと、歴史の先生が生徒にちょっとしたネタとして話をする日があるというのも、あながち夢物語ではないのかもしれない……それはないか。

◆さて、月代わりで開催されている連続ミニフェア「歴史書懇話会・今月のオススメ」、現在は次の5書店で開催しています（カッコ内はフェア開始の日付）。◇天童市TENDO八文字屋（2006年7月～）／◇新潟市紀伊國屋書店新潟店（2007年8月～）◇松江市今井書店グループセンター店（2008年6月～）／◇大阪市喜久屋書店阿倍野店（2013年11月～）／◇出雲市今井書店出雲店（2014年7月～）。会員社の、今まさにオススメしたい旬な歴史書を展開しています。お近くの方はぜひ足をお運びいただければ幸いです。

(RK)

山川セレクション創刊!

中国史

上・下

尾形勇・岸本美緒編

『新版世界各国史3 中国史』をハンディ版の上・下巻に改め刊行。躍進する21世紀の中国を、歴史的視野にたつて見つめ直すための通史。下巻では習近平政権を新たに加筆。

B6変型判 上巻336頁 下巻320頁 各本体1200円

アメリカ史

上・下

紀平英作編『新版世界各国史24 アメリカ史』をハンディ版の上・下巻に改め刊行。最新のオバマ政権、そしてトランプ政権の登場をも新たな歴史的視点で問い、アメリカ史の新しい地平を目指す。下巻には新たに終章を加筆。

B6変型判 上巻320頁 下巻272頁 各本体1200円

ここから 戦後の
『山川』高校歴史教科書が始まった!

復刻版

A5判 各本体1800円
日本史・376頁
世界史・360頁

日本史概観 世界史概観

戦後の歴史教科書の原型を完全復刻!

公益財団法人史学会編

戦後に新制高等学校の社会科が発足し、史学会が高校生のために編集した概説書。昭和24年に『世界史概観』を、翌昭和25年に『日本史概観』を刊行した。歴史教育史における重要な資料と考え、表現は当時のまま、紙面を拡大し、復刻版として刊行。



江戸

幕末維新の江戸から東京へと変わりゆく姿を克明に記録。大仏や建造物など当時の写真は貴重な資料。約550点掲載。

幕末

日本カメラ博物館所蔵写真初の書籍化。当博物館にしかない勝海舟の遣米使節団一行のすべてや、写真師が撮った幕末の貴重な写真を、人物をメインに掲載。

秘蔵古写真シリーズ

日本カメラ博物館監修
第5判 256頁 各本体1800円

英文詳説世界史

A5判 464頁
本体2700円

WORLD HISTORY for High School

編者 絃・岸本美緒・小松久男・水島 司 監修
毎年三〇万人が読む最もスタンダードな高校世界史教科書の英訳版。学生にも、グローバル社会でも活躍するビジネスマンにも、役立つ冊!

日本の伝統文化

日本の伝統文化 ①

日本文化の基層となる古代「家」型が形成された中世、それらが大成する近世——それぞれの時代と文化の関係を描き、伝統がいかにつくられたのかを探る。シリーズの総論論。
四六判 496頁十カラ―口絵8頁 本体4000円

五味彦著

新版図説歴史散步事典

佐藤 信編 史跡見学や美術鑑賞に必携のロングセラー「図説歴史散歩事典」を、四〇年ふりにリニューアル。豊富な写真や図版で文化財の見方をやさしく解説。多色刷。
B6変型判 448頁 本体1800円

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13

[価格は税別]

電話 03-3293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

核軍縮の現代史

北朝鮮・ウクライナ・イラン
瀬川高央著 1900円

東西冷戦後、米ソの距離核戦力削減、ウクライナや朝鮮半島の非核化交渉、イラン核交渉等による核軍縮が進んだ。安全保障上の利害の異なる関係諸国が、どう核拡散の脅威を低減する合意を成立させてきたか。

三宅雪嶺

(人物叢書29)
中野目 徹著 2300円

明治・昭和期のジャーナリスト。政教社を設立し、社会事象を雑誌「日本人」に論じた。政治権力から距離をとり、独自の哲学構築と日本・日本人像を模索した稀有の言論人として、近代日本の歩みを体現した生涯。

中世鎌倉のまちづくり

災害・文 高橋一朗著
通・境界 2800円

山と谷が取り囲み、南に海が広がる鎌倉。寺社や遺跡、都市の「かたち」が中世の雰囲気や現在に伝えている。多様な機能を持つ橋や禅宗寺院から武士たちの暮らしを分析。人や物が絶え間なく行き交う都市鎌倉を探る。

平将門の乱を読み解く

(歴史文化ライブラリー489)

木村茂光著 皇統を揺るがせ、朝廷に衝撃を与えた平将門の乱の原因を探り、その過程に天神など新しい神々が登場する意味や、王土王民思想が発現される要因を分析。反乱の国家的意義を探る。 1800円

現代語訳 小右記

◎「この世をば」
倉本一宏編 2800円

道長三女の威子が後一条天皇の中宮に立ち、「一家三后」という形で道長の栄華が頂点を極める。その宴席で実資は、道長の詠んだ「この世をば」を皆で唱和しようと提案。その胸中や如何に。(第9回)

定評ある〈日本史年表〉の決定版

「令和」を迎え、「平成」を網羅した十四年ぶりの増補新版!

日本史総合年表 第三版

加藤友康・瀬野精一郎・島海靖・丸山雍成編

特価15000円(2022年2月末迄)以降本体18000円(内容案内)呈



東京の歴史

渋谷区・中野区・杉並区・板橋区・練馬区・豊島区・北区
みる・よむ・享 櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編 近代化にともない鉄道が伸び、人が移り住み、ムラからまちへと都市化を遂げた二三区西北部エリア。その変貌と発展を描く。(地帯編4) 2800円

菓子和菓物

(日本の食文化⑥) 関沢まゆみ編 2700円
砂糖が普及する以前、甘い食物は貴重だった。古代から食されてきた栗・柿・みかん、年中行事と関わる徳頭・汁粉・相餅、庶民に親しまれた餠、贈答品の和菓子など、甘味文化を描く。(最終回)

日本の神話を考える

(読みなおす日本史) 上田正昭著 2200円
『古事記』『日本書紀』だけが日本の神話ではない。『風土記』や『万葉集』なども神話の貴重な断片を伝えている。その全体を東アジアとの関わりも視野に入れて見直し、日本神話の成立と構造を解明する。

古代日本の国家と土地支配

松田行彦著 11000円

中世足利氏の血統と権威

谷口雄太著 9500円

帝国日本の大陸政策と満洲国軍

及川琢英著 9000円

戦後日本の教科書問題

中野 良著 9000円
石田雅春著 9000円

吉川弘文館



歴史手帳

2020年版 1100円

(価格税別)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2 / ☎03-3813-9151

表紙を一新しデジタル付録を大增補した「歴史百科」

歴史書懇話会

▶ 会員社名簿 ◀

明石書店

101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：深谷直樹〉
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174

同成社

102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：工藤龍平〉
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466

塙書房

113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617

法藏館

600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：秋月俊也〉
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458

ミネルヴァ書房

[本社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 101-0062 千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2F
TEL. 03-3525-8460 FAX. 03-3525-8461 〈担当者：青柳英孝〉

山川出版社

101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：田村 裕〉
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994

吉川弘文館

113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2019年11月1日発行・第246号

取扱店

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)